

平成 25 年日本熱物性学会第 1 回(2013-1)役員会議事録  
平成 24 年第 4 回(2012-4)役員会との合同会議

日時:平成 25 年 1 月 26 日(土) 役員会 14:00~16:30

場所:芝浦工業大学豊洲キャンパス 研究棟 5F 大会議室

出席者:(五十音順・敬称略)

青木秀之(東北大)	赤松正人(山形大学)
上利泰幸(大阪市立工業研究所)	池内賢朗(アルバック理工)
大村高弘(ニチアス)	小澤俊平(千葉工業大学)
小原拓(東北大学)	片岡秀文(大阪府立大)
熊野智之(神戸工業高専)	小林一道(北海道大学)
佐藤讓(東北大学)	高橋一郎(山形大学)
田口博幸(京都電子工業)	田澤真人(産業技術総合研究所)
田中明美(日本女子大学)	寺岡善和(金沢大学)
平澤良男(富山大学)	福地賢治(宇部工業高専)
堀部明彦(岡山大)	牧野俊郎(京都大学)
宮崎康次(九州工業大学)	元祐昌廣(東京理科大学)
桃木悟(長崎大学)	森川淳子(東京工業大学)
森田慎一(米子工業高専)	山口勉功(岩手大学)
山田修史(産業技術総合研究所)	山田純(芝浦工業大学)
山本泰之(産業技術総合研究所)	

審議事項:

佐藤前会長,長坂会長より挨拶があり,続いて新旧役員,及び小原次期事務局担当の紹介がなされた.  
配布資料の確認が行われた.

議 題:

(1) 前回議事録確認……………資料番号:13-1-1-役

山本評議員より,資料 13-1-1-役 に基づき,前回議事録の確認があった.誤記修正を経て議事録は承認された.

(2) 学生ベストプレゼンテーション賞選考結果報告……………資料番号:13-1-2

桃木活動委員会委員長より,資料 13-1-2 に基づいて,第 33 回シンポジウムでの学生ベストプレゼンテーション賞の選考について説明があった.28 名応募のうち 4 件受賞.学会入会(会費納入済)が応募条件であることの周知が不十分であったため,今後は周知を徹底する.選考時には重複受賞がないよう配慮を行ったとのこと.

## (3)第 33 回日本熱物性シンポジウム報告……………資料番号:13-1-3

山田事務局担当より、第 33 回日本熱物性シンポジウムの収支決算が報告された。当日申込者及び企業展示が多かったこと、並びに会場費を安く抑えたため、準備金以上を学会に寄付することができた旨が説明された。

## (4)学会運営に関する覚書……………資料番号:13-1-4

山田事務局担当より、学会運営に関する覚書の紹介があった。表彰関係の記載について、一部で表彰委員会内規との相違が見られるが、これは後に修正すること。研究分科会に関して、分科会の期限に関する文言及び設立承認の記述に一部修正がなされた。シンポジウム講演論文集の印刷部数について、第 33 回シンポジウム分の記述は後に補完。また、シンポジウム支出に関して、「赤字に…」という記述は、理事会での再協議の結果、削除されることとなった旨が報告された。

## (5)第 33 期(平成 24 年)活動報告……………資料番号:13-1-5

山田事務局担当より、学会の第 33 期(平成 24 年)の活動報告に関する報告が、続いて収支決算の報告があり、了承された。

## (6)第 34 期(平成 25 年)事業計画……………資料番号:13-1-6

山田事務局担当より、学会の第 34 期(平成 25 年)の事業計画に関する報告があった。第 35 回シンポジウムについて東京工業大学での開催が検討中であること、会員名簿の発行が予定されていること、新規研究分科会として「ふく放射性質とその放射制御に関する研究会」の設立が理事会にて承認されたことが報告された。長坂会長より、30 周年記念出版の進捗状況について、ナノ・マイクロスケール熱物性ハンドブックについては、2013 年度中には出版できるとの報告があった。田中前副会長より、分科会「低温環境における熱物性の基礎と応用」からの出版物について、早期に発行したいとのこと。

## (7)第 34 期(平成 25 年)収支予算……………資料番号:13-1-7

山田事務局担当より、学会の第 34 期(平成 25 年)の収支予算に関する報告があった。今年は名簿印刷費が計上されている。編集委員会費を追加計上することとが理事会で提案、承認されたとのこと、了承された。

## (8)第 34 回日本熱物性シンポジウム準備状況……………資料番号:13-1-8

平澤シンポジウム実行委員会委員長より、11 月富山開催の第 34 回日本熱物性シンポジウムの準備状況についての報告があった。第 1 回会告が学会誌 2 月号に掲載予定。

## (9)第 35 回日本熱物性シンポジウム準備状況……………資料なし

山田事務局担当より、第 35 回日本熱物性シンポジウムの準備状況について、東京工業大学にて開催予定との報告があり、実行委員会委員長には東工大の花村先生が、時期は 11 月中旬を予定。

## (10)各種委員会報告……………資料番号:13-1-9

編集委員会

堀部編集委員会委員長より、資料 13-1-9-1 に基づいて、学会誌 2 月号に関する報告があった。小澤丈夫氏の追悼文の原稿担当者については東前編集委員会委員長に確認頂くこととなっている。アジア熱物性会議の CFP も併せて掲載する。次期編集委員の候補については、次回までに案をまとめること、5 月号に関して、巻頭言は吉田第 33 回シンポジウム実行委員会委員長に執筆頂くこととなっていることが報告された。

熱物性値サービス委員会

山田熱物性値サービス委員会委員長より、資料 13-1-9-2 に基づいて報告があった。シンポジウム予稿集の一般公開形式で閲覧できるよう準備中であり、現在 1980～2012 年分の予稿集を試用 URL で閲覧できるため、意見があれば担当委員まで連絡頂きたいとのこと。

活動委員会

桃木活動委員会委員長より、資料 13-1-9-3(13-1-2)に基づいて、活動報告があった。ベストプレゼンテーション賞関連業務の報告がなされた。

広報委員会

宮崎広報委員会委員長より、資料 13-1-9-4 に基づいて、広報活動について報告があった。HP 更新と ML 運用が主たる活動で、フロントページコラムの頻度を上げたいのをお願いすることがあるとのこと。

表彰委員会

牧野前表彰委員会委員長より、資料 13-1-9-5-1 に基づいて、表彰委員会の活動について報告があった。学会賞と名誉員の報告記事が発行済である旨が報告された。続いて、資料 13-1-9-5-2 に基づき、2013 年学会賞候補の募集案が出された。学会誌 2 月号の原稿案については、佐藤表彰委員会委員長が作成頂き、理事会にてメール審議が行われる旨が報告された。

(11) 研究分科会について……………資料番号:13-1-10

水の特異な熱・輸送特性と応用に関する研究会

山田事務局担当より、資料 13-1-10-1 に基づいて、年間計画書について報告があった。本来は活動期間の 2 年は昨年度で終了だが、継続してシンポジウムでの OS 企画を行っていききたいとのこと。

高温融体物性と材料プロセス

小澤評議員より、資料 13-1-10-2 に基づいて、活動計画について報告があった。年 2 回の研究会とシンポジウムでの OS 開催を企画しているとのこと。

先進材料の熱物性と宇宙システムデザイン

山田事務局担当より、資料 13-1-10-3 に基づいて、活動計画について報告があった。年 4 回の研究会、及び 30 周年記念出版を企画しているとのこと。

ふく射性質とその放射制御に関する研究会

山田事務局担当より、資料 13-1-10-4 に基づいて、理事会で設置承認を受けた旨が報告された。年 4 回の研究会、テキストの発刊、シンポジウムでの OS 開催を企画していることが報告された。資金計画については、これは後に調整されるとのこと。活動予算についての記述の誤りが指摘・修正された。

(12) 事務局報告……………資料番号:13-1-11-1~2

山田事務局担当より,資料 13-1-11-1~2 に基づいて,協賛行事,並びに会員異動に関する報告があった。続いて,役員会のスケジュールの確認が行われた。また,会員名簿の作成に関する予定が説明された。

(13)その他(研究分科会規程について)……………資料番号:13-1-12

高橋規程等整備担当より,資料 13-1-12 に基づき,本日の理事会で承認された研究分科会規程についての説明があった。入会に際して会員資格は不問であること,会の研究期間が原則 2 年であること,会員・非会員は参加費の徴収に関する差異があること,申請及び期間延長の場合には 8 月末までに申請すること,分科会の設置は理事会で承認され,役員会で報告すること,本規程は学会誌 2 月号及び学会 HP で掲載されることで了解された。

以上